



## 音楽学習の大切さ！生涯を通じて音楽に親しむって素敵ですね！

小学校教育における音楽教育は、単に「歌を歌う」「楽器を弾く」という技術の習得にとどまりません。子どもの認知機能、情緒、そして社会性を育む上で、極めて重要な役割を果たしています。AIやデジタル化が加速するこれからの時代（Society 5.0など）において、音楽教育がどのような意味を持ち、どう位置づけられていくのか、その大切さを紐解きます。

### 1 小学校教育における音楽教育の「4つの大切さ」：子どもの発達段階において、音楽は脳と心に多面的な刺激を与えます。

**非認知能力の育成**：合奏や合唱は、他者の音を聴き、自分の音を合わせる「協調性」や「傾聴力」を育てます。また、一つの曲を創り上げるプロセスを通じて、粘り強さや自己コントロール力が養われます。

**感性と表現力の開花**：言葉にならない感情を音に託して表現することで、豊かな感性が育まれます。これは、自己理解や情操の安定にも深くつながっています。

**認知機能と脳の発達への好影響**：楽譜を読む（視覚）、音を聴く、楽器を動かす（触覚・運動）というマルチタスクは、脳の作業記憶や言語処理能力の発達を促すことが科学的にも証明されています。

**文化的多様性の理解**：日本の伝統音楽（民謡や和楽器）から諸外国の音楽まで触れることで、自国の文化を愛する心と、他国の文化を尊重するグローバルな視点が自然と身に付きます。

### 2 これからの教育における音楽の位置づけ：これからの社会では、知識の量そのものよりも「知識を使って新しい価値を生み出す力」が求められます。そのため、音楽教育の位置づけは従来の「情操教育の一環」から、「未来を生き抜く創造性の土台」へとシフトしていきます。

①「正解のない問い」に挑むクリエイティビティの源泉：これからの時代に最も必要なのは、ゼロから新しいものを生み出す創造性です。音楽の創作活動や即興表現は、「これが唯一の正解」というものはありません。「自分は どう表現したいか」を問いつける経験そのものが、イノベーションを起こす思考力の土台になります。

②ウェルビーイングの実現：デジタル画面に向かう時間が増えるこれからの子どもたちにとって、身体全体を使って音を感じ、他者とリアルな空間で響き合う音楽の時間は、人間らしさを取り戻す大切なリトリート（息抜き場）になります。生涯にわたって音楽を楽しみ、心を豊かに保つ「ウェルビーイング」の基礎を小学校で築きます。

③STEAM教育との融合（A=Artsとしての役割）：科学・技術・工学・数学を統合する「STEM教育」に、芸術・リベラルアーツを足した「STEAM（スティーム）教育」の重要性が叫ばれています。音楽は、音の周波数やリズムのパターンなど「数学的・科学的」な側面を持ちながら、感情を揺さぶる「芸術」でもあります。プログラミングで音楽を作るなど、テクノロジーと音楽を融合させた新しい学びの形も、これからのスタンダードになっていきます。

## 未来を拓く「小学校の音楽教育」：技術習得を超えた、生きる力の土台作り

